



琉大病院の伝統を踏襲しつつ、最新の医療が提供できる病院としての発展を目指します。



琉球大学医学部附属病院 院長
村山 貞之 先生

Q1. この度は、琉球大学医学部附属病院長ご就任おめでとうございます。現在の率直な感想をお聞かせ下さい。

実は、須加原現医学部長が病院長から任期半ばで学部長に就任され、その後、心の準備もなく慌ただしく私が病院長に就任することになりましたので、就任当初は面食らっておりました。2004年の国立病院法人化後の琉大病院のかじ取りは瀧下先生、須加原先生が病院長として指揮されてこられ、私は、この間病院執行部として微力ながら働いてきましたので、まずは、これまでの病院の方針を踏襲しなさいということであると認識して、なんとか役目を果たしていこうと、自分を元気づけている今日この頃です。

Q2. 来年度には、「沖縄クリニカルシミュレーションセンター」が設置され更なる研修体制の充実が図られることと存じますが、村山病院長におかれましては、今後どのような病院運営を目指されるのか、抱負を含めてお聞かせください。

抱負というより、今年度遂行しなければならないことが山積みですので、それを意識した毎日を送っています。すなわち、昨年から決まっていた、県内の主要な臨床研修病院が参加した

クリニカル・シミュレーションセンターの大学病院内設置、サイクロトロン・PET-CTによる機能画像診断センターの設置、卒後臨床研修センターと血液浄化部を拡充し移設するための鉄骨2階建て施設の建設をつつがなくやり遂げることが、さしあたっての私の仕事だと思っています。また、病院再開発、すなわち10年後を見据えた病院の改築・新築の準備も今年中には方向性を出さなければならないと思っています。

病院長になって最初に手をつけさせていただいたのは、病院機能の充実のために、この4月から新たに医療福祉支援センター（連携室）、安全管理対策室に専任医師のポストを設けたことです。さらに現在、過酷な勤務医の労働環境や待遇の改善が施策として求められていますので、それを意識した病院運営にも心がけていきたいと思っています。

Q3. 東日本大震災の発生からすでに3ヶ月以上経過しています。沖縄県における災害対策とその中における琉大病院の役割についてお聞かせ下さい。

最初に、未曾有の大惨事となりました東日本大震災に被災された皆様のご親族、関係者の方々にお悔やみ、お見舞いを申し上げたいと思います。わが病院からもDMATメンバーを早

期に派遣したり、精神科医、薬剤師など多数の琉大病院に勤務されている方々が、援助に行かれました。医薬品など物的支援も早期から行ってあります。現在は、被災地もやや落ち着きを取り戻している状況と思われませんが、現在の琉大病院の取り組みとしては、九州の大学病院ブロックの一員として、岩手県への長期的医師派遣に向けて待機中であります。また、放射線の土壌汚染の計測の依頼に対して、最近福島県に派遣いたしました。

Q4. 先生には6月23日から沖縄県医師会理事にご就任いただいておりますが、県医師会に対するご意見・ご要望がございましたらお聞かせください。

私は現在まで10年ほど沖縄県医師会代議員を務めて参りましたが、会議に出席する以外は、あまり活動に参加しておりませんでした。しかし、議事の内容については認識しており、医師会の活動に感服しておりました。これから理事の仲間入りをさせていただくわけですので、しっかり役割を果たし、沖縄県の医療の発展に尽力したいと思っています。

これは、私見ですので、的外れなことを言いましたらお許しください。琉大病院の病院長は琉大病院医師会の会長も併任します。この琉大病院医師会は、所在地が西原町で中部の南端、

南部の北端であるためか、地域の医師会での色々な連携会議にお声がかからないことが多かったと認識しています。是非、どちらの地区の会議の一員にもしていただいて、地域医療連携に尽くしたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

Q5. 最後に日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がございましたらお聞かせ下さい。

日頃の健康法は、特にありませんが、家では油ものを控えるなど食生活には気をつけています。最近運動といえば、たまのゴルフぐらいで運動不足になっているのを気にしています。昔行っていたウォーキングを今年こそは復活させねばと思っています。趣味は、野鳥観察とやきもの鑑賞・収集です。画像診断医のせいか、美しいもの、見事なものを見ることに対する執着が強いようで、仕事の疲れを忘れさせてくれます。

座右の銘は、敬天愛人。自分は鹿児島生まれなので、西郷隆盛に対する憧憬が小さい頃からあり、西郷さんのように生きたいものだと常日頃思っています。

この度は、インタビューへご回答頂き、誠に有難うございました。

インタビューアー：広報委員 金谷 文則